

Asia Herabuna Summit

～ヘラブナ釣りの発展をアジアで考える～



日本発祥の釣りスタイル「ヘラブナ釣り」の魅力は、日本を超え、アジアを中心に広がっています。アジアを含む新たな枠組みでヘラブナ釣りの魅力を発信するために開催したAsia Herabuna Summit（アジアヘラブナサミット）の内容について紹介します。

【はしもとブランド推進室】

昨年5月に開催された「COOL JAPAN AWARD 2019」では、「ヘラブナ釣り」と紀州へら竿の町「橋本」が「一般部門インバウンドカテゴリー」に選ばれ、日本伝統の釣り文化が全国に認められました。そこで、ヘラブナ釣りのさらなる発展・継続に向け、日本のみではなく、アジア全体で課題を共有し、解決のための施策を提案するとともに、プラットフォーム（基盤）としての役割を本市が果たしていくため、アジアヘラブナサミットを開催することとなりました。

アジアヘラブナサミットとは



▲紀州へら竿

伝統の紀州へら竿

100年以上の伝統の技を受け継ぐ、紀州製竿組合の製竿師が一本一本丹精を込めて作る「紀州へら竿」は、国の伝統的工芸品にも指定され、全国シェアの大半を占めています。

昨年12月1日、国内外で有名な各釣りメーカーのインストラクターとともにヘラブナ釣りを楽しみ、プロのスキルを体感できる釣りイベント「Asia Herabuna R Games Respect」を開催しました。次のページでは、イベントの様子を写真で紹介いたします。

プロのインストラクターとヘラブナ釣りを体験



▲各釣りメーカーの商品展示コーナーの様子

ヘラブナ釣りの活動や課題を共有

昨年11月30日、紀州製竿組合、国内やアジアの釣りメーカーなどがパネリストとして登壇し、「ヘラブナ釣りの発展をアジアで考える」をテーマにパネルディスカッションを行いました。ヘラブナ釣りに関する活動内容や課題を共有し、ヘラブナ釣り文化を今後どのように発展させるかなどについて話し合いました。

今月のかけ橋人

身近な相談窓口 × 橋本人



橋本市民生委員児童委員協議会

会長 奥村 里枝子さん（東家）

民生委員であった義理の母を間近に見ていたこともあり、委員となって今に至ります。民生委員・児童委員の仲間と地域の悩みを解決していく中で、誰かを助けたり、自分も助けられたりすることで、人と人とのつながりを実感します。また、最近は登下校の見守りなど学校との係わりも増えており、子どもたちからも元気をもらっています。

民生委員・児童委員の役割は多様化していますが、活動を楽しんでもらい、「委員になってよかった」と言ってもらえるよう、これからも頑張りたいと思います。

目次

- 2 新年のごあいさつ
- 5 特集 アジアヘラブナサミット
- 8 特集 民生委員・児童委員の紹介
- 10 情報ワイド
 - ▶ 年末年始の業務案内
 - ▶ 消防出初式
- 11 情報ひろば
- 20 タウン情報
- 21 子育てぱーく
- 22 本のひろば
- 23 健康カレンダー
- 24 フォトトピックス

今月の表紙



橋本橋北詰の紀の川護岸から見た日の出。皆さんの希望があふれる一年になりますように。